

2017年8月2日

スカパーJSAT 株式会社

「光データ中継衛星のバス運用に係る業務」の受注について

スカパーJSAT 株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 執行役員社長：高田 真治、以下スカパーJSAT）は、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（本社：東京都調布市、理事長：奥村 直樹、以下JAXA）から、「光データ中継衛星のバス運用に係る業務」を受注しましたので、お知らせいたします。

「光データ中継システム^{*1}」は、宇宙空間（高度 約 1,000km 以下）を周回する複数の観測衛星や宇宙ステーション等が地上局と通信を行う際に、静止軌道上（高度 約 36,000km）にある光データ中継衛星を介して光回線を用いて通信を行うシステムです。これまでは、JAXA の DRTS 衛星^{*2}が電波を用いて上記の通信を行っていましたが、DRTS 衛星後継機として JAXA が開発を進め、2019 年度に打ち上げ及び 2020 年度に運用開始が計画されている光データ中継衛星では光回線を介したシステムとなります。スカパーJSAT は、この光データ中継衛星の衛星バス^{*3}運用（範囲：運用前の準備、及び衛星バスの運用・維持管理）を受注しました。

スカパーJSAT は、これまでも JAXA の超高速インターネット衛星「きずな」（WINDS）^{*4}の運用を受託（2012 年～）しており、本年で 6 年目を迎える当該衛星の運用を通じて、着実に JAXA 衛星の運用経験を積んでまいりました。

この度の「光データ中継の衛星バス運用に係る業務」の受注は、これまでの実績に加え、スカパーJSAT が有する豊富な衛星運用経験や技術が評価されたことと受け止めております。今後もスカパーJSAT は、宇宙・衛星事業の知見と創意を活用し、宇宙利用の拡大や宇宙産業の発展に貢献してまいります。

^{*1} JDRS (Japanese Data Relay System) : 光データ中継システム

(文部科学省ウェブサイトより :

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu2/059/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2016/02/17/1365278_1.pdf)

^{*2} DRTS (Data Relay Test Satellite) : 日本が初めて打ち上げたデータ中継を専門とする人工衛星

(JAXA ウェブサイトより : <http://www.satnavi.jaxa.jp/project/drts/>)

^{*3} 衛星バス : 衛星を軌道上で運用するための基本機能。軌道上で必要な電力を発生させる太陽電池や、姿勢制御や軌道制御用のエンジンなどの基本的な機能が組み込まれた、衛星を形づくる筐体のようなもの。

^{*4} WINDS (Wideband InterNetworking engineering test and Demonstration Satellite) : 3.2Gbps の超高速でデータ通信を行なうことができる超高速インターネット衛星

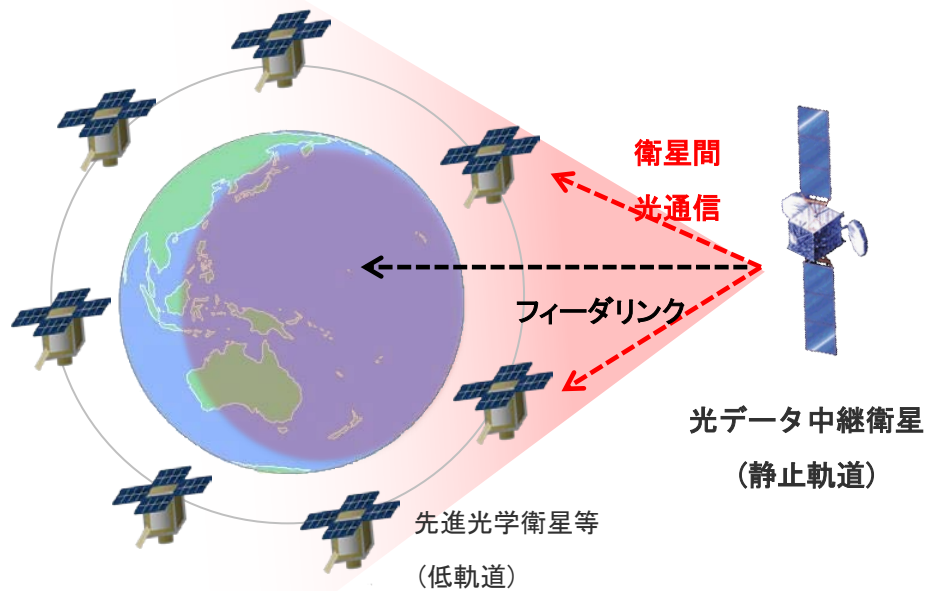
(JAXA ウェブサイトより : <http://www.satnavi.jaxa.jp/project/winds/>)

以上

SKY Perfect JSAT Corporation News Release



参考資料



*) イメージ図です